インパクト志向金融宣言
Japan Impact-driven Financing Initiative

インパクト志向金融宣言
1年の成果をまとめたメディア報告会

インパクト志向金融宣言
一般財団法人社会変革推進財団（SIIF）
2024年1月15日　10:00-11:30 @SIIF

2021年11月に署名機関21社で発足したインパクト志向金融宣言は、
74社（2024年1月時点）に拡大し、多様なアセットクラスの民間金融機関が
自ら協働しインパクト・ファイナンスの質・量の向上に向けて活動しています。

この度、この活動の1年間の成果を取りまとめた
「プログレスレポート」を公開いたしました。

本日はメディアの皆様に、国内外インパクト投資の動向を振り返りつつ、署名
機関による「インパクトファイナンスの残高」や、
今後の活動の方向性について説明させて頂きます。

本日の内容

- ご挨拶　SIIF 専務理事　青柳　光昌
- 運営委員長よりご挨拶

  運営委員長　三井住友トラスト・ホールディングス株式会社　フェロー役員　金井司
- インパクトファイナンスをめぐる2023年の振り返りと2024年の外部の動き　事務局
- 署名機関によるインパクトファイナンス残高　事務局
- 現状の課題と今後の活動
  - ①IMMについて　運営委員　株式会社SBI新生銀行　執行役員サステナブルインパクト推進部長　長澤　祐子
  - ②地域金融について　運営委員長　三井住友トラスト・ホールディングス株式会社　フェロー役員　金井司
  - ③アセットオーナーについて　事務局　安間匡明
- まとめと今後の活動について

  運営副委員長
  りそなアセットマネジメント株式会社　チーフ・サステナビリティ・オフィサー　常務執行役員責任投資部担当　松原稔
- 質疑応答

本日の内容

- ご挨拶　SIIF 専務理事　青柳　光昌
- 運営委員長よりご挨拶

  運営委員長　三井住友トラスト・ホールディングス株式会社　フェロー役員　金井司
- インパクトファイナンスをめぐる2023年の振り返りと2024年の外部の動き　事務局
- 署名機関によるインパクトファイナンス残高　事務局
- 現状の課題と今後の活動
  - ①IMMについて　運営委員　株式会社SBI新生銀行　執行役員サステナブルインパクト推進部長　長澤　祐子
  - ②地域金融について　運営委員長　三井住友トラスト・ホールディングス株式会社　フェロー役員　金井司
  - ③アセットオーナーについて　事務局　安間匡明
- まとめと今後の活動について

  運営副委員長
  りそなアセットマネジメント株式会社　チーフ・サステナビリティ・オフィサー　常務執行役員責任投資部担当　松原稔
- 質疑応答

本日の内容

- ご挨拶　SIIF 専務理事　青柳　光昌
- 運営委員長よりご挨拶
  運営委員長　三井住友トラスト・ホールディングス株式会社　フェロー役員　金井司
- インパクトファイナンスをめぐる2023年の振り返りと2024年の外部の動き　事務局
- 署名機関によるインパクトファイナンス残高　事務局
- 現状の課題と今後の活動
  - ①IMMについて　運営委員　株式会社SBI新生銀行　執行役員サステナブルインパクト推進部長　長澤　祐子
  - ②地域金融について　運営委員長　三井住友トラスト・ホールディングス株式会社　フェロー役員　金井司
  - ③アセットオーナーについて　事務局　安間匡明
- まとめと今後の活動について
  運営副委員長
  りそなアセットマネジメント株式会社　チーフ・サステナビリティ・オフィサー　常務執行役員責任投資部担当　松原稔
- 質疑応答

本日の内容

- ご挨拶　SIIF 専務理事　青柳　光昌
- 運営委員長よりご挨拶

  運営委員長　三井住友トラスト・ホールディングス株式会社　フェロー役員　金井司
- インパクトファイナンスをめぐる2023年の振り返りと2024年の外部の動き　事務局
- 署名機関によるインパクトファイナンス残高　事務局
- 現状の課題と今後の活動
  - ①IMMについて　運営委員　株式会社SBI新生銀行　執行役員サステナブルインパクト推進部長　長澤　祐子
  - ②地域金融について　運営委員長　三井住友トラスト・ホールディングス株式会社　フェロー役員　金井司
  - ③アセットオーナーについて　事務局　安間匡明
- まとめと今後の活動について

  運営副委員長
  りそなアセットマネジメント株式会社　チーフ・サステナビリティ・オフィサー　常務執行役員責任投資部担当　松原稔
- 質疑応答

インパクト関係機関の整理と流れ

政府 | 非営利セクター | 企業 | 金融機関

- ◆ 2013
- ◆ 2014
- ◆ 2015
- ◆ 2017
- ◆ 2021
- ◆ 2022
- ◆ 2023
- ◆ 2024

G8インパクト投資タスクフォース創設（G8議長国イギリス政府の呼びかけによる）

G8インパクト投資タスクフォース国内諮問委員会設立（事務局：日本財団）

GSG国内諮問委員会設立（事務局：日本財団）

SIIFが日本財団よりスピン・アウト　事務局機能もSIIFへ移転

JPN | GSG Driving real impact

SIIF Social Innovation and Investment Foundation

インパクト志向金融宣言 Japan Impact-driven Financing Initiative

SIIF Social Innovation and Investment Foundation

Impact Startup Association

◆ インパクト・コンソーシアム発起人大会

◆ インパクト・コンソーシアム設立

金融庁 Financial Services Agency

経済産業省 Ministry of Economy, Trade and Industry

インパクトファイナンスをめぐる2023年の振り返りと2024年の動き

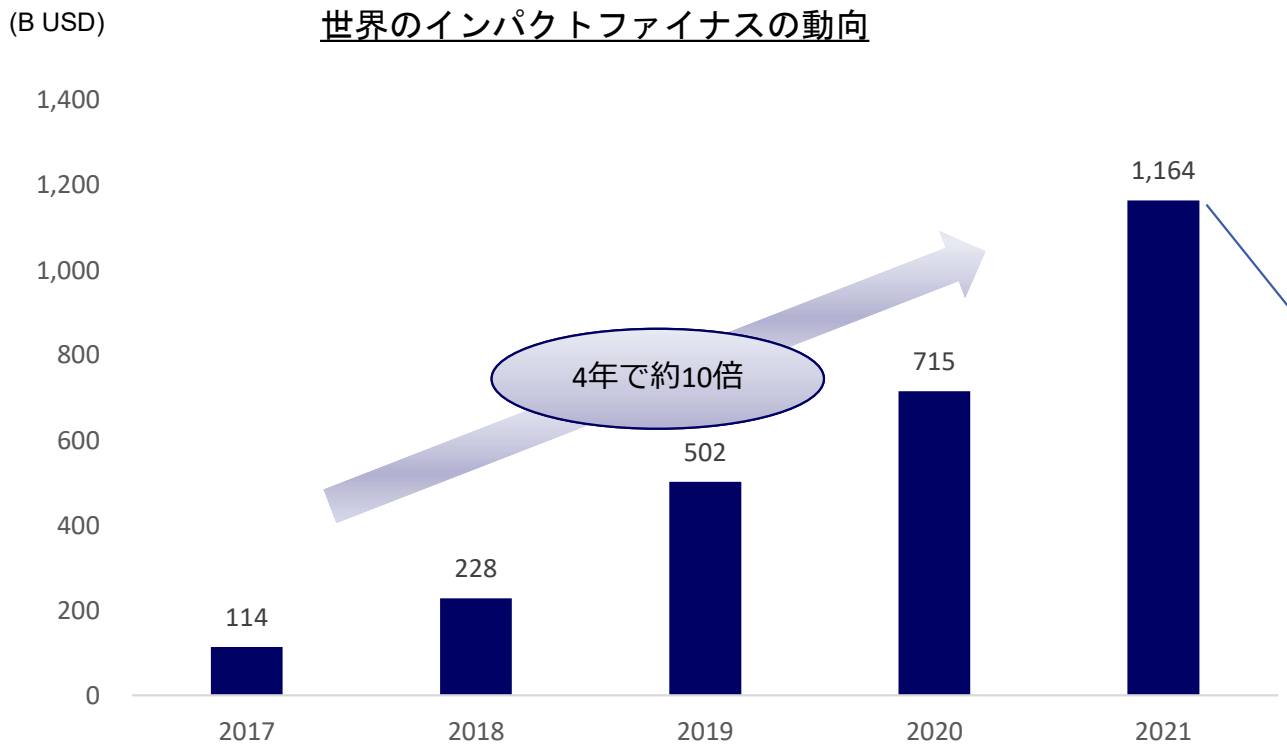
2023年

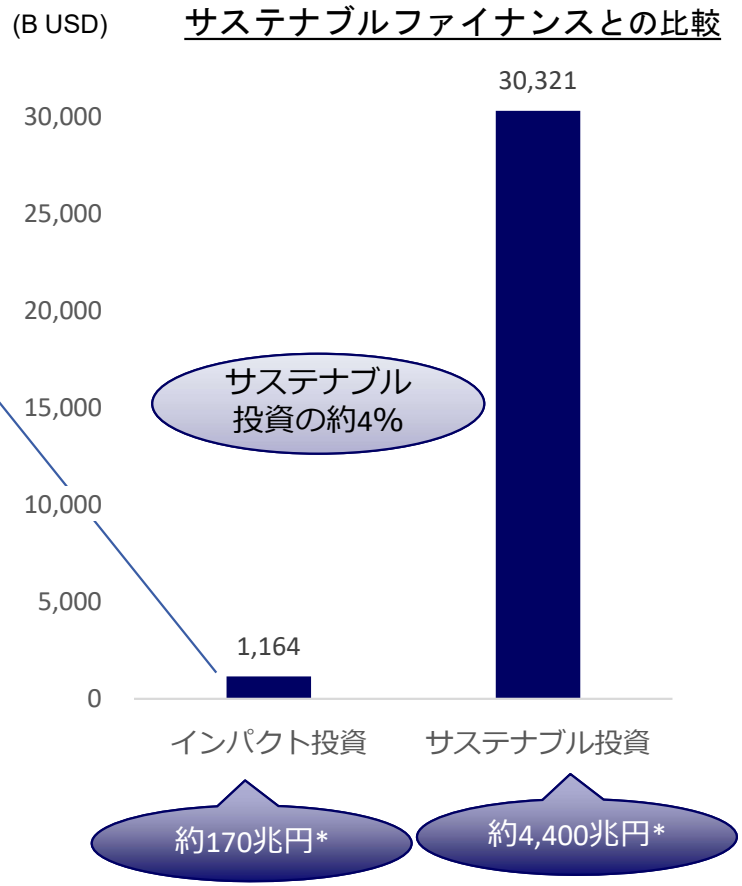
- 5月　GSG国内諮問委員会　日本のインパクト投資残高　5兆8,480億円と発表
- 5月　G7「グローバルヘルスのためのインパクト投資イニシアティブ」発表
- 6月　岸田政権「骨太方針」内にインパクト投資推進言及
- 6月　金融庁「インパクト投資に関する基本的指針（案）」への意見募集
- 11月　金融庁主導インパクトコンソーシアム発起人大会開催

2024年

- 1月頃以降　金融庁主導インパクトコンソーシアム分科会会員募集
- 5月頃　インパクトフォーラム・インパクトコンソーシアム第1回総会開催

世界のインパクトファイナスの動向
急激に伸びているが、サステナブルファイナンスの約4%程度



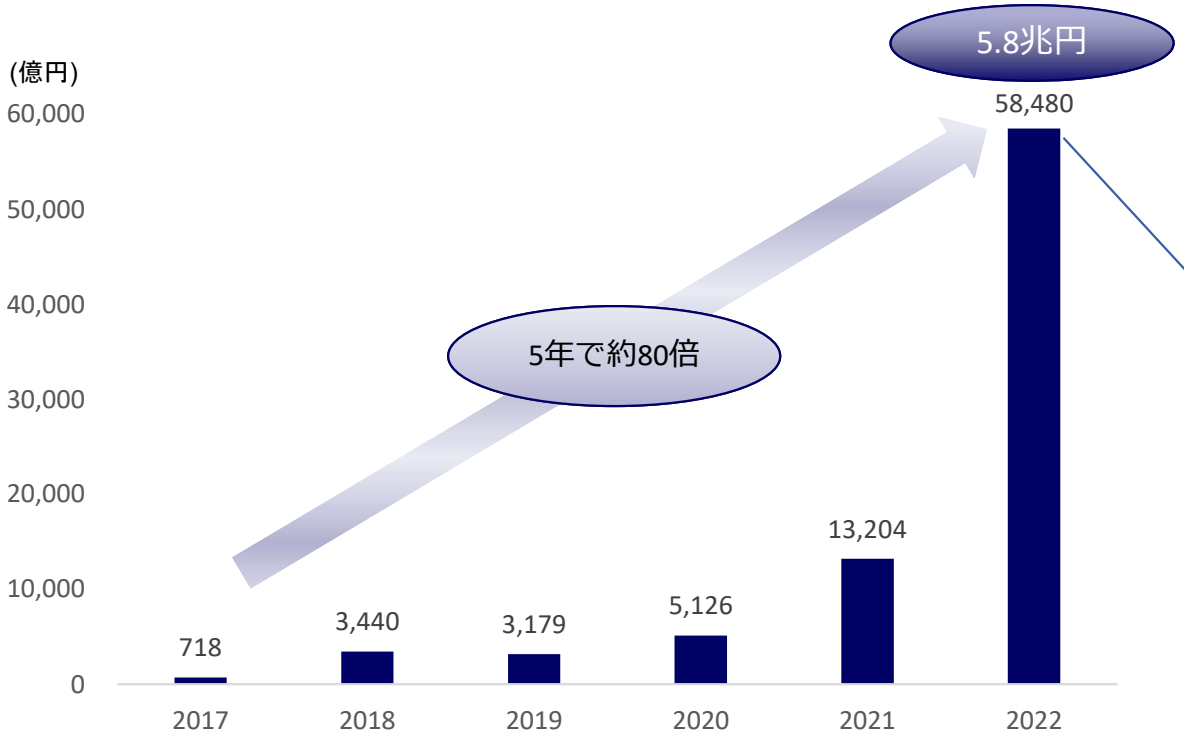


*2016～2018年は、投資家のアンケート調査集計。2019年、2020年は市場規模調査。データの性格は異なる
出所：GIIN "Sizing the Impact Investing Market 2022"(残高は2021年12月）

出所：GSIA,(2022), "Global Sustainable Investment Review 2022"
*1ドル＝145円換算

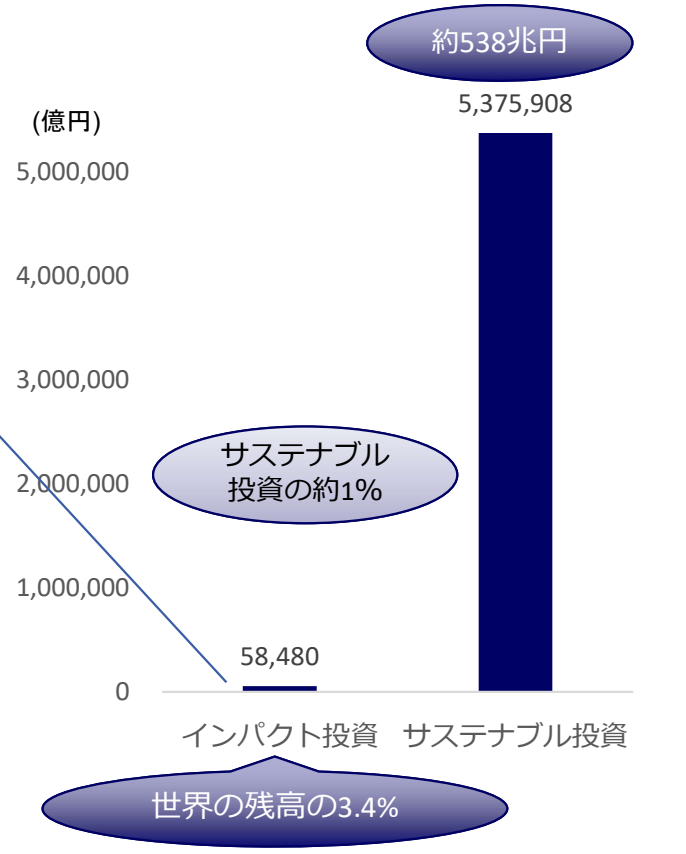
日本のインパクトファイナスの動向
急激に伸びているが、日本サステナブルファイナンスの約1%程度

日本のインパクトファイナスの動向



出所: GSG国内諮問委員会「日本におけるインパクト投資の現状と課題」
*アンケート回答に基づき確認できたインパクト投資残高であるため、必ずしも日本のインパクト投資市場規模そのものの推計値ではない。またこの掲載された年度は報告書発行年度であり、インパクト投資残高はアンケート実施前年度期末のものである。また、「インパクト投資」の定義は各年度調査により異なっている

サステナブルファイナンスとの比較



出所：日本サステナブル投資フォーラム（JSIF）(2023),
「サステナブル投資残高アンケート 2023」(2023年3月)

本日の内容

- ご挨拶　SIIF 専務理事　青柳　光昌
- 運営委員長よりご挨拶

  運営委員長　三井住友トラスト・ホールディングス株式会社　フェロー役員　金井司
- インパクトファイナンスをめぐる2023年の振り返りと2024年の外部の動き　事務局
- 署名機関によるインパクトファイナンス残高　事務局
- 現状の課題と今後の活動
  - ①IMMについて　運営委員　株式会社SBI新生銀行　執行役員サステナブルインパクト推進部長　長澤　祐子
  - ②地域金融について　運営委員長　三井住友トラスト・ホールディングス株式会社　フェロー役員　金井司
  - ③アセットオーナーについて　事務局　安間匡明
- まとめと今後の活動について

  運営副委員長
  りそなアセットマネジメント株式会社　チーフ・サステナビリティ・オフィサー　常務執行役員責任投資部担当　松原稔
- 質疑応答

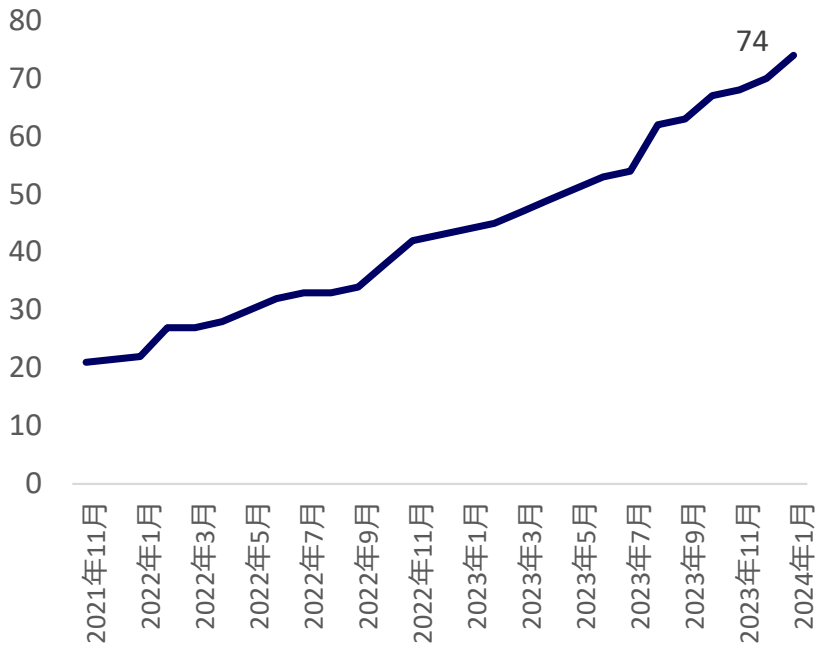
インパクト志向金融宣言

Japan Impact-driven Financing Initiative

レポート
P1-4

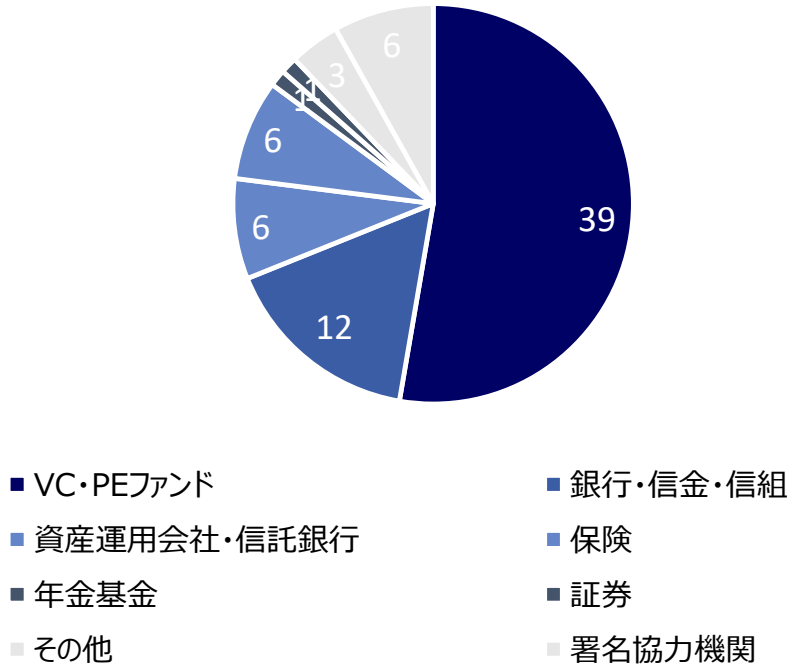
- 銀行、保険会社、運用機関、ベンチャーキャピタル等の様々な業種の金融機関が、組織の目的として、金融を通じて環境・社会課題を解決するという考え方に基づき、2021年11月に21社で発足した民間主導のプラットフォーム
- 2024年1月現在、署名金融機関68社　署名協力機関6社、計74社
- 5つの分科会、3つの企画チーム（常設）、その他プロジェクトチームを中心に活動中

署名機関数推移



組織構成

【署名金融機関68社　署名協力機関6社】



2023年インパクトファイナンス残高

レポート
P8

- 2023年9 月1日時点 署名機関・賛同機関インパクトファイナンス残高63機関の残高合計（12非公開）
- **10兆7,240億円**の「インパクトファイナンス」を確認 (昨年**３兆8,500億円より３倍弱**)
  ①残高が大きい大手金融機関（三井住友銀行、農林中央金庫、日本生命等）が新たに署名
  ②既存の大手金融機関が残高を拡大（三菱UFJ銀行、みずほ銀行、SBI新生銀行、第一生命、かんぽ生命等）が理由

レベル１＋２　合計 **10,723,999 百万円**

環境	社会	環境＆社会
合計 5,175,701 百万円	合計 872,487 百万円	合計 4,675,811 百万円
48.3%	8.1%	43.6%

（参考）2022年　署名機関インパクトファイナンス残高総額

昨年度
レポート

- 2022 年10 月1 日時点署名機関インパクトファイナンス残高**38機関**の合計を集計（6非公開、1非掲載）
- **3兆8,500億円**の「インパクトファイナンス」を確認

レベル1＋2

合計 **3,850,027 百万円**

環境	社会	環境＆社会
合計 1,948,138 百万円	合計 409,671 百万円	合計 1,492,218 百万円
50.6%	10.6%	38.8%

インパクトファイナンス算入基準マトリックス

- 署名機関のインパクトファイナンスの実績把握のために分科会で参加機関担当者が議論し決定
- インパクト測定・マネジメント（IMM）実践レベルを外形的な基準により分類
- 「意図」があるがまだ測定に至っていない数値についても把握

レポート
P8

レベル 2
インパクト創出の「意図」・「戦略」がある＋
アウトカムまたはアウトプットを「測定」している＋
特定されたポジティブなインパクトの創出および
重大なネガティブインパクトの緩和に向けた
「マネジメント」を実施している

レベル 1
インパクト創出の「意図」・「戦略」がある＋
アウトカムまたはアウトプットを「測定」している

レベル 0
インパクト創出の「意図」・「戦略」がある＋
アウトカムまたはアウトプットを「測定」していない

投資カテゴリー
KPI を設定している分野に応じて「環境」「社会」「環境＆社会」の
3 種類に振り分ける

	環境	社会	環境＆社会
レベル 2	2	2	2
レベル 1	1	1	1
レベル 0	0	0	0

インパクトファイナンス算入基準マトリックス

レポート
P8

レベル1＋2 合計 **10,723,999 百万円**

環境	社会	環境＆社会
合計 5,175,701 百万円	合計 872,487 百万円	合計 4,675,811 百万円

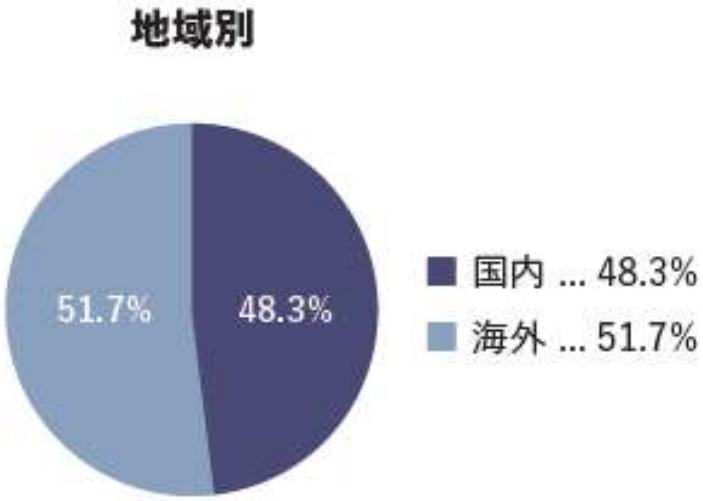
	環境	社会	環境＆社会	合計
2	1,085,472 百万円	207,105 百万円	2,912,684 百万円	4,205,261 百万円
1	4,090,229 百万円	665,382 百万円	1,763,127 百万円	6,518,738 百万円
0	2,452,103 百万円	2,780,241 百万円	1,832,747 百万円	7,065,091 百万円
	環境	社会	環境＆社会	合計
1＋2 合計 0＋1＋2 合計	5,175,701 百万円 7,627,804 百万円	872,487 百万円 3,652,728 百万円	4,675,811 百万円 6,508,558 百万円	**10,723,999 百万円** 17,789,090 百万円

48.3%	8.1%	43.6%

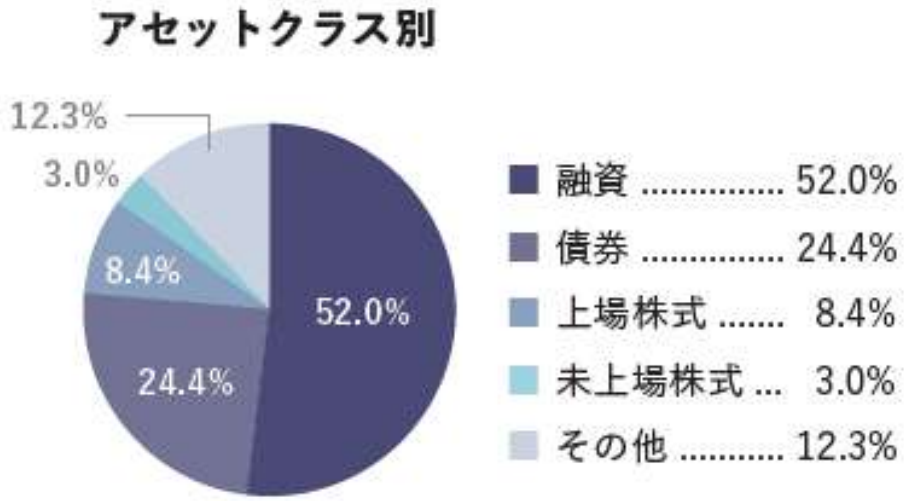
地域別・アセットクラス別内訳

- 公開されたうち、国内・海外の区分はほぼ半々、アセットクラス別は融資が過半であり債券は24%

レポート
P9



（総額 6,019,393 百万円）



（総額 3,677,258 百万円）

＊上記はインパクトファイナンス残高のうち地域別・アセットクラス別内訳を公開した署名機関・賛同機関の残高総計です。

インパクトファイナンス算入基準をめぐる議論について

レポート
P9

- インパクトファイナンスの定義：「財務的リターンと並行して、**ポジティブで測定可能な社会的及び環境的インパクトを同時に生み出すことを意図**する投資」
- 投融資のデータを集計･発表する上で「外形的に何を基準に、どこまでをインパクトファイナンスに算入するのか」という点については、**主要な関係機関の間でも明確な合意はない**
- 当宣言は、インパクトファイナンスを**「インパクト測定」・「マネジメント」の実践レベル**による分類を試み、昨年の課題を抽出した上で、署名機関と複数回にわたり議論を重ねた
- 特に融資において、ラベルファイナンスをどのレベルに分類するか、**機関によって考え方が異なるケース**もあり、「各社が独自の判断でレベル分けをした数字に意味があるのか」という声もある
- しかし、この議論を通じ、**各社が社内の集計手法を見直したり、現業部門とインパクト･マネジメントの実態について議論**が始まった。さらに、他社との議論を通じて、例えば「目標値がBAU(Business as Usual) や外部の規制が求める水準を超えないものをインパクト測定と呼べるのか」、「融資におけるインパクト･マネジメントの重要な要素とは何か」といった**新しい視点で既存の業務を見直す取り組みも始まり**、このような動きは当宣言の成果といえる
- それぞれのアセットクラスにおいて「測定」や「インパクト・マネジメント」の重要な要素は何なのか。（例：金利水準の調整などを組み込んだストラクチャリング、融資先とのより深いエンゲージメント、等）それらを算入基準として、外形的にどのように定義するのか。論点はまだまだ山積しているが今後も、議論を続け質を高めていくことが重要

本日の内容

- ご挨拶　SIIF 専務理事　青柳　光昌
- 運営委員長よりご挨拶

  運営委員長　三井住友トラスト・ホールディングス株式会社　フェロー役員　金井司
- インパクトファイナンスをめぐる2023年の振り返りと2024年の外部の動き　事務局
- 署名機関によるインパクトファイナンス残高　事務局
- 現状の課題と今後の活動
  - ①IMMについて　運営委員　株式会社SBI新生銀行　執行役員サステナブルインパクト推進部長　長澤　祐子
  - ②地域金融について　運営委員長　三井住友トラスト・ホールディングス株式会社　フェロー役員　金井司
  - ③アセットオーナーについて　事務局　安間匡明
- まとめと今後の活動について

  運営副委員長
  りそなアセットマネジメント株式会社　チーフ・サステナビリティ・オフィサー　常務執行役員責任投資部担当　松原稔
- 質疑応答

①IMMに関するこれまでの活動と今後の方向性

これまでの活動

- インパクトファイナンスの中核的特徴の一つが**「インパクトの創出状況を把握し管理する」**こと（ Impact Measurement & Management / インパクト測定・マネジメント」 ）。（なお、従前日本では**「インパクト評価」**と言われていたが近年ではIMMと呼称するのが一般的）
- IMMの概念は一定程度広まったが、国際的に見てもIMMの統一的なフレームワーク・アプローチ・指標が存在しないことが推進上の課題
- 当宣言においては、IMM企画チームや各分科会にて、①海外の先進的事例の共有、②国内の先進的事例の共有、③現状実施状況の把握調査、等を行なってきたところである

IMM企画/海外連携企画主導の取組

【海外先進事例共有勉強会】
・PE ファンド運営会社 LeapFrog Investments
・Affirmative Investment Management Japan
・Impact Principles 事務局「インパクト原則」
・VCファンドMunich Venture Partners（9条ファンド）
・インパクト検証コンサルティング会社Blue Mark
・PEファンド Mediterrania Capital Partners
・Big Society Capital
・Global Impact Investment Network
・Impact Frontiers

各分科会主導の取組（主なもの）

【S指標分科会】
・SDG インパクト基準の勉強会
・日本版ディーセント・ワーク８指標の勉強会
【地域金融分科会】
・先進事例の勉強会
・PIFの共通KPI関連調査（継続中）
【VC分科会】
・日本版PlayBookの作成（継続中）
日本のインパクトVC現状IMM調査

①IMMに関するこれまでの活動と今後の方向性

課題

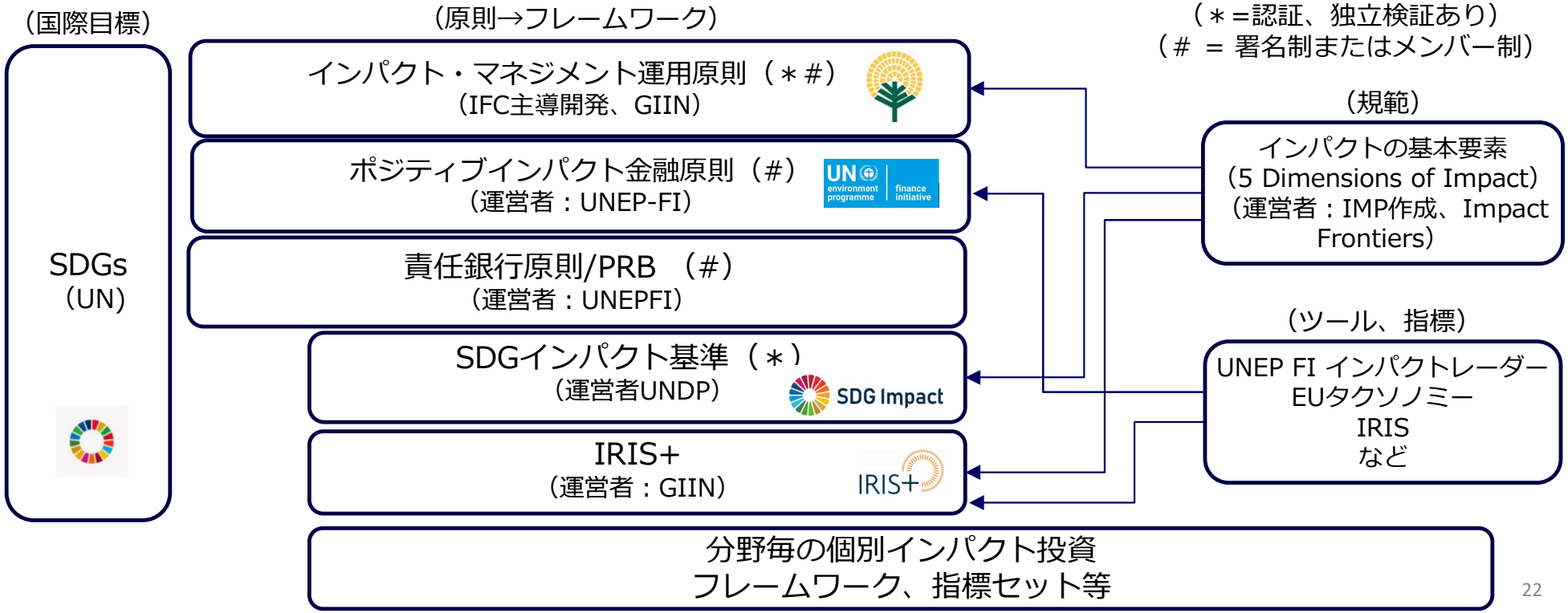
- 現時点においても、十分に完成されたと認識できるIMMの統一的なフレームワーク・アプローチは、国内外問わず、存在しない
- 特に、日本市場において大きな地位を占める融資における有効なIMMの在り方についての議論が不足している
- 当宣言においても、各分科会でそれぞれのアセットクラス毎の知見の共有・ピアラーニングは進んでいるが、横断的な取り組みには至っていない

今後の活動

活動内容案	各分科会の取組を横刺しするIMM担当を設置
	各分科会の担当が集まるIMM企画会議にてウェビナー等を企画
	インパクトファイナンス算入基準ガイダンスをより横断的に議論しアップデート
	アセットクラス横断的な「IMMの基本的あり方」文書作成を目指す
セミナー対外発信	欧州の算入基準に関するセミナー
	IMPによるインパクトマネジメント最新動向セミナー
	IMMに関する日本と海外の意見交換
	海外会議にて日本の状況の発信

（参考）IMM及び関連フレームワーク

- IMMとは、**自らの事業活動が人々や地球に及ぼすプラスとマイナスの影響を特定し、検討すること、そして、自社の目標に沿う形でマイナスを軽減し、プラスを最大化する方法を見つけ出すことが含まれる。インパクトの測定と管理は、本質的に反復的なもの**
- そして、その基本要素には、**1) インパクト・ゴールと期待値の設定、2) 戦略策定、3) 測定指標の決定と、目標値の設定、4) インパクト・パフォーマンスの管理**、の 4 つがある＊
- 国際的な原則、フレームワーク、指標等は複数存在するが、主なものは以下のとおり



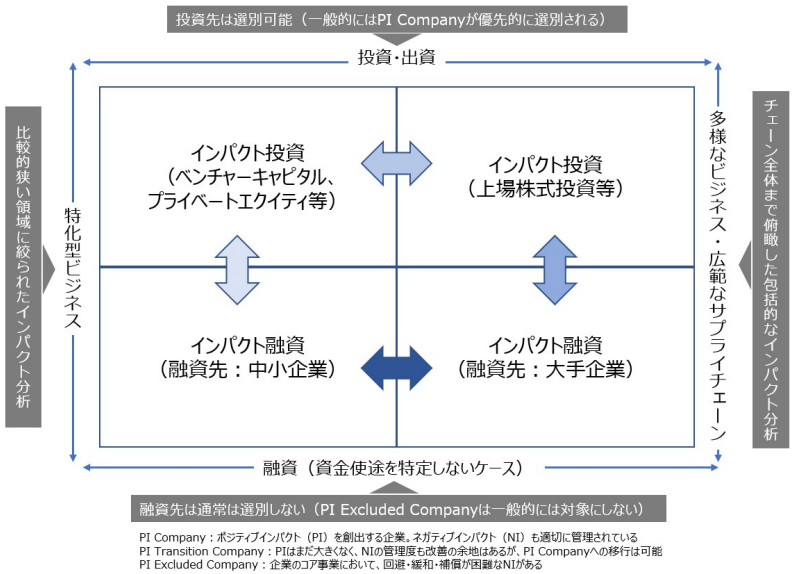
*GIIN, GETTING STARTED WITH IMPACT MEASUREMENT & MANAGEMENT (IMM)

②地域金融に関するこれまでの活動と今後の方向性

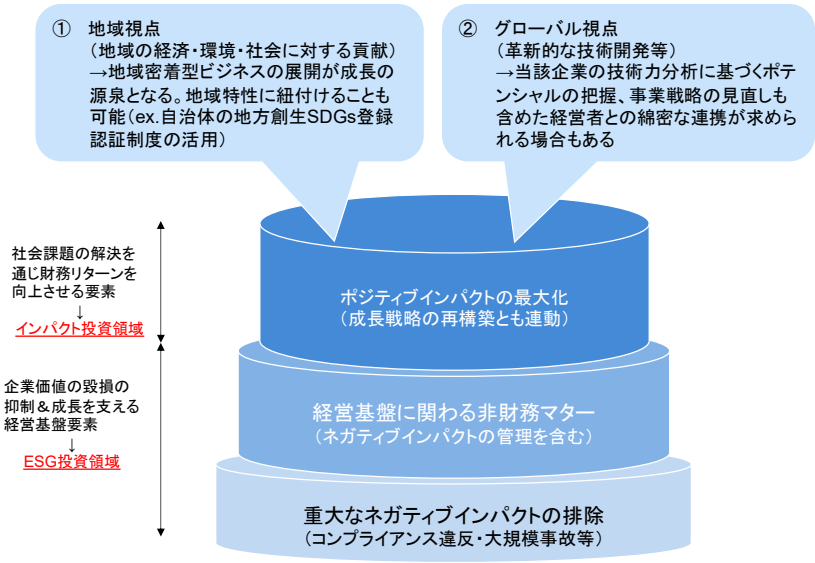
これまでの活動

- 地域インパクトファイナンスを暫定的に「地域の課題解決に向けて、インパクトの創出に取り組む企業等を支援するファイナンス」と定義
- 主たる担い手である地域金融機関を念頭に「アセットクラス、投融資先の規模に応じた区分整理（ 四象限モデル）」「地域PIF（ポジティブ・インパクト・ファイナンス）の三層構造モデル」について合意（分科会の成果物）

４象限モデル



地域PIFの三層構造モデル



②地域金融に関するこれまでの活動と今後の方向性

課題

- 地域金融分科会の3つの戦略テーマ：
  ① 地域インパクトの底上げのための情報発信
  ② インパクトを基点とした地域金融機関の融資業務とファンドの投資業務の接合のあり方
  ③ 地域インパクトファイナンスの共通指標の検討
- これまでの活動を通じ追加的に明らかになってきた課題：
  - そもそも地域におけるインパクトファイナンスとは何か（暫定案の合意）
  - 地域企業が創出するポジティブインパクトを深掘りし金融面で支援する必要
  - 融資と投資の接合は「IMMのポータビリティ化」だけでなく、両者を繋ぐ金融スキーム（メザニン領域）の導入についても考える必要があるのではないか

今後の活動

- ①→インパクトコンソーシアムや21世紀金融行動原則と積極的に連携する
- ②→事例研究等を通じ分科会としての知見を積み上げ検討を深める
- ③→共通指標の検討については、現状、地域金融機関により実施されているポジティブ・インパクト・ファイナンス（PIF）の指標を整理・共有し、考え方を整理する（今年度環境省ESG地域金融促進事業の成果物の内容の取り込みも検討）
- ③の一環として、ポジティブインパクト指標のあり方についても検討を深める

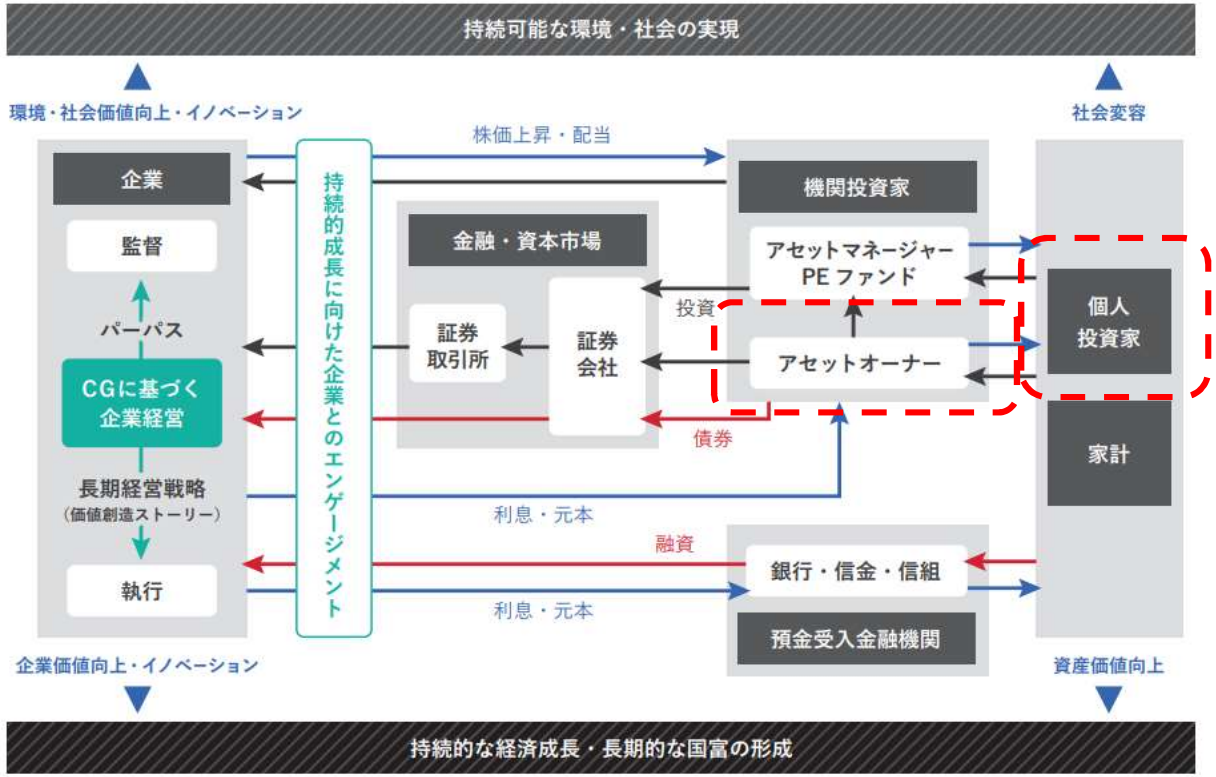
③アセットオーナーに関するこれまでの活動と今後の方向性

課題

- インベストメントチェーン全体の中で重要な役割を果たすアセットオーナー（背後にいる個人を含む）へのアプローチ・理解獲得不足

今後の活動

- ①既にインパクトファイナンスを実施済・未署名AOへアプローチ、②PRI署名済AOに対してのインパクトF参画へのTOC策定、③インパクトと企業価値の相関についての調査の推進と共有、④上場株インパクト投資に関するAOアライアンスの設立構想、⑤AO向け推進イベントの実施



出所: GSG国内諮問委員会「インパクト投資に関する勉強会」フェーズ２デット IMM 分科会、「デットにおけるインパクトファイナンスの考え方とインパクト測定・マネジメントガイダンス」

本日の内容

- ご挨拶　SIIF 専務理事　青柳　光昌
- 運営委員長よりご挨拶

  運営委員長　三井住友トラスト・ホールディングス株式会社　フェロー役員　金井司
- インパクトファイナンスをめぐる2023年の振り返りと2024年の外部の動き　事務局
- 署名機関によるインパクトファイナンス残高　事務局
- 現状の課題と今後の活動
  - ①IMMについて　運営委員　株式会社SBI新生銀行　執行役員サステナブルインパクト推進部長　長澤　祐子
  - ②地域金融について　運営委員長　三井住友トラスト・ホールディングス株式会社　フェロー役員　金井司
  - ③アセットオーナーについて　事務局　安間匡明
- まとめと今後の活動について

  運営副委員長
  りそなアセットマネジメント株式会社　チーフ・サステナビリティ・オフィサー　常務執行役員責任投資部担当　松原稔
- 質疑応答

今後の大きな方向性

- インパクトファイナンスは、民間が自らの自発的意思で行う取組であり、その活動を集団的に象徴しているものが当宣言の活動であると考える

- 他方、官公庁がインパクトファイナンスの参加機関の裾野を広げるためにインパクトコンソーシアム（IC)を設立し、その重要性を広く訴えていただけることは、インパクトファイナンスの拡大のため大変喜ばしく歓迎する

- 当宣言としても、建設的にインパクトコンソーシアムに協力をしていく所存

- 官の役割は、参加金融機関の裾野の拡大に向けた官民の連携にくわえて、公的部門にしかできない、例えば、以下に記載するような取組であり、インパクトコンソーシアムへはそのあたりの取組を期待している

官にしかできない取組例

- 公的部門だけでは対応できない日本の重要社会環境課題の特定と整理
- アセットオーナーによるインパクトファイナンスの参画を可能とする受託者責任等に関する法的整理
- 環境社会課題に関する基礎的な統計整備
- 様々な民間の推進プラットフォームの橋渡し
- 省庁間・自治体間連携
- インパクトファイナンスに関する調査研究の集約

民主導で取組べき課題・取組例

- インパクトファイナンス産業の構築
- アセットクラスを跨る金融機関の横連携
- 業界のスタンダード・規律の確立
- IMMの高度化・推進
- IMMの基本的ガイダンス・ガイドブックの作成

2024年の主な具体的活動案

- 2025年4月からの宣言の自走化に向けた準備を継続（自走化PTの設置と提言）
- 運営規程の試行的導入と本格導入（2024年1月の年次総会にて決議・導入予定）
- 2023年8月以降署名協力機関の参画：新たにサービスプロバイダーも含めた活動（現在6機関）
- 分科会間の連携強化（例：地域金融とVC、IMM横ぐし強化）アセットクラス毎（縦）と共通テーマ（横）の活動の強化
- 代表経営者レベルの活動の推進
- インパクトコンソーシアムとの戦略的連携を踏まえた追加的付加価値

インパクト志向金融宣言 中期計画 (2023-2025年)

A：着実な進捗あり
B：一部進捗あり
C：進捗なし

	活動内容	優先度	2023年進捗
1 インパクトファイナンスの実践を支援する包摂性の高い活動を継続する	● 署名機関間の情報共有やピアラーニングによる実践の悩み解決、実践の蓄積、象徴的事例の創出	○	A:各分科会や企画チームの活動を通して継続的に実施
2 先進事例・データ・ツールを意欲的に収集・分析し、指標や指針を開発する	● 海外の最新動向やフレームワークの紹介	○	A:海外連携企画が主に推進
	● 先進事例の情報収集・共有（クロスオーバー投資や非上場・上場の連結の好事例、IMMや開示の好事例等）	○	A:各分科会や企画チームの活動を通して実施
	● インパクト関連データの整備・作成・集約・公開(※)	△	C
	● 参加金融機関のベンチマーク調査（IMM実践等）・ピアレビュー	△	B:VC分科会で取組み中
	● 社会性指標の開発、基準や指針の整理、コンセプト開発	○	B:地域金融分科会で調査開始
3 人材の育成を推進する	● 金融機関がインパクトファイナンスを推進していくために必要な多様性ある人材の育成、確保	○	B：分科会活動や各機関内で推進（成果をどう測るか？）
4 活動内容や成果、インパクト創出事例を定期的・戦略的に発信する	● 活動内容や成果に関する情報発信（対金融業界、対事業会社、その他対マスメディア向け）	○	A:レポート発行やセミナー実施により、メディア掲載あり
	● インパクト大賞、認証制度の創設	△	C
5 戦略的エンゲージメントを推進する	● 対金融機関内部（金融機関経営者を含む）とのエンゲージメント	○	B：各機関で推進
	● 対政策立案者（政府・自主規制機関）、資金の出し手（個人、年金基金）、投資先、証券会社等とのエンゲージメント	○	B：AO/AM分科会でAO連携に向けて協議
6 プラットフォーム運営・活動基盤を強化する	● 自走化計画の策定・移行	○	B:自走化PT発足
	● ガバナンスや運営規程の策定、情報蓄積・共有の仕組み構築、ブランド力の強化、包摂性の維持、あたらしい金融の在り方検討	○	B:運営規程の試行導入開始、会員専用ページの開設

(※)他の取組みとの連携の上で、本プラットフォームでの活動実施内容・範囲を検討

本日の内容

- ご挨拶　SIIF 専務理事　青柳　光昌
- 運営委員長よりご挨拶

  運営委員長　三井住友トラスト・ホールディングス株式会社　フェロー役員　金井司
- インパクトファイナンスをめぐる2023年の振り返りと2024年の外部の動き　事務局
- 署名機関によるインパクトファイナンス残高　事務局
- 現状の課題と今後の活動
  - ①IMMについて　運営委員　株式会社SBI新生銀行　執行役員サステナブルインパクト推進部長　長澤　祐子
  - ②地域金融について　運営委員長　三井住友トラスト・ホールディングス株式会社　フェロー役員　金井司
  - ③アセットオーナーについて　事務局　安間匡明
- まとめと今後の活動について

  運営副委員長
  りそなアセットマネジメント株式会社　チーフ・サステナビリティ・オフィサー　常務執行役員責任投資部担当　松原稔
- 質疑応答

（参考）インパクトコンソーシアムについて

出所：金融庁　インパクトコンソーシアムのご案内

インパクトコンソーシアムの組織について

発起人

- コンソーシアム設立の発起
- 規約案の策定

総会

- 事業方針と運営の基本的事項を決定
- 年１回総会を開催
- 役員（会長・副会長）の選任

事務局

- 当面の間、国により支援
- 事務運営は、委託も活用
- 予算等も踏まえつつ、オンラインプラットフォーム等の参加者間の情報連携の取組みも検討

アドバイザリーパネル

- 国内外の組織・有識者が参画し、国際動向を踏まえた方向性、対外発信・連携のあり方等をアドバイス

運営委員会

- 総会の委任を受け、総会の日程、分科会の設置・調整、その他のコンソーシアムの運営に係る事項を決定
- 第一回総会までは発起人・同代理人が暫定運営委員を務め、第一回総会で総会により選任

設立時の暫定的な分科会構成

- 運営委員会により、各分科会の設置・議事等を調整・決定
- 第一回総会までに、暫定的に以下の分科会を設け、参加者間の協働により、議事やメンバーを具体化し、第一回総会以降に改めて決定

①データ・指標 | ②市場調査・形成 | ③地域・実践 | ④官民連携促進

（※）金融庁等の国の機関は、会員ではなくオブザーバーとして参加し、運営支援や活動への協働等を行う

出所：金融庁　インパクトコンソーシアムのご案内

当面の分科会構成について

① データ・指標分科会

国内外の先行研究等と連携しながら、事例の共有・分析等を行い、中長期的な課題解決・事業性実現等に有効な**インパクト指標**の設定のあり方、投資実施時の**データの収集・推計方法**、社会課題を示す**マクロデータ**のあり方など、データ・指標の項目と着眼点、収集方法等について、議論を行う。中期的には、**国際団体等と連携した投資実践に活用できるデータ等の整備**を目指す。また、**インパクト加重会計の取組みとの連携**等を検討していく。

② 市場調査・形成分科会

日本の**インパクト投資市場の概況を整理**し、国際比較や本邦投資家・企業等の特徴も踏まえつつ、**裾野拡大を図るべき市場やこのための課題等について議論**する。例えば、上場前の又は上場を目指さない企業のインパクト評価、セカンダリー・上場等の出口、多角的な事業を営む上場企業へのインパクト評価、長期投資のあり方等について順次議論を行う。その上で、**それぞれの市場に適した・典型的な投資手法や類型等を他のネットワークと連携・橋渡しをしつつ議論・集約・発信**していくことを目指す。

③ 地域・実践分科会

地域において**社会・環境課題への対応を通じた事業の展開・革新等に取り組む企業**を念頭に、**事業性の理解・評価に際してインパクトを考慮する手法**、企業特性に合わせた出資・融資・ベンチャーデット等を含む**ファイナンスのあり方、支援手法等**について、事例共有・ケーススタディ等を通じ議論を行う。中期的には、特に**地域を念頭に、インパクトを踏まえた事業性の理解と支援の実践的手法等を議論・集約・発信**していくことを目指す。

④官民連携促進分科会

社会課題が多様化する中で、国や自治体等の行政組織が民間事業者と連携しその課題解決にあたる必要性が増しているところ、**特にインパクトスタートアップと連携した社会課題解決の促進について議論**する。具体的には、**両者のマッチングの場の提供とマッチング後の連携を深めるための座組の検討、事例創出等**を目指す。

出所：金融庁　インパクトコンソーシアムのご案内